

編集 後記

記憶にないほどの暖冬にいささか驚いております。このまま春を迎えるのではと錯覚を覚える今日この頃です。地球の温暖化が問題になっていますが、世界各地に起こる異常気象を目の当たりにして、何となくそうなのかと実感しております。

さて、2006年度版の『年報』第41号を刊行する運びとなり心から嬉しく思うとともに、刊行に当たり執筆協力を頂いた参与と所員をはじめとする関係者に感謝申し上げる次第です。

本年度の編集経緯をみますと、論文12編、研究ノート2編の執筆申し込みをいただきました。特に、本年度は中国プロジェクトも2年目を迎え、本格的に中国との合同シンポジウムの開催や研修旅行が積極的に実施されました。今回の中国プロジェクトの推進役を担った柴田所長には本当にご苦勞様でした。何かと適切なアドバイスをいただき編集担当一同、厚く御礼申し上げます。『年報』の編集に当たり、これまでの経験から4、5人の年報執筆者の辞退を予測していたのですが、実質2名の辞退者に留まりました。しかしながら、このことと相まって投稿規定枚数以上の執筆者が4名ほど出たためにその調整に手間取ってしまいました（結果として

3名の執筆予定者に年報投稿辞退をお願いする形となりました）。ぜひ、執筆者は今後とも投稿規定枚数100枚以内を厳守していただきたく思います。

また、最近では手書きの原稿持ち込みは少なくなりましたが、その場合はできれば予定の締切日より1週間前に提出していただくと、編集の立場から助かります。今回の処理についてはご不満のあった所員もいたのではないかと思いますが、重々ご理解いただきますようお願い申し上げます。

さらに、事務・編集作業全般をサポートして頂いた土屋みな子さんには、いつもながら無理なことをお願いしまして大変申し訳ありませんでした。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、最後になりましたが、本年度も編集作業を進める上で、公人社の大出明知氏には何かとご無理をお願いし大変お世話になり、心から御礼申し上げます。

(前田和實)